

REPORT

International

第22回ウニマ総会・世界人形劇フェスティバル



ウニマ総会の様子

名古屋のからくり人形師玉屋庄兵衛 上演風景

La Licorne [SPARTACUS]

5月28日から6月5日までの9日間にわたってスペインのサン・セバスチャンとトロアで催された第22回ウニマ総会と世界人形劇フェスティバルに、日本ウニマの評議員として参加しました。ウニマ(UNIMA)とは、UNION INTERNATIONALE DE LA MARIONNETTE(国際人形劇連盟)の略称で、人種・国家・社会体制・民族・国籍・宗教・芸術傾向の違いにかかわらず、人形劇芸術にたずさわる全世界の人々が、人形劇芸術を通して平和と国民相互の理解に貢献するため自発的に集まった組織です。1929年に設立され、1988年には初めてアジアの地、名古屋・飯田・東京で第15回の総会が開催されました。

総会に先だって5月28日、29日の両日の昼間にはシンポジウムが開かれました。28日の夜にはオープニングの乾杯が行われた後、海岸近くの野外の会場へ移動。オープニング・ショウのTol Theatre(ベルギー)の「PEDALEANDO HACIA EL CIELO(空に向かってペダルを踏む)」を観ました。建物に影を映したり、花火やクレーンでつり上げた役者が花びらを撒いたり、とにかく派手で美しく、フェスティバルの雰囲気を感じ上げます。

5月30日から6月3日まではウニマ総会。ウニマの活動や財務状況の報告と承認、各国ウニマの活動報告、執行委員や役員を選出などの人事、各種委員会の報告と見直し、次回総会の開催国などが話し合われ、次回2020年の総会はインドネシアのバリに決定しました。

世界人形劇フェスティバルは、劇場上演が子ども向け6、大人向け5、路上パフォーマンスなどが24、その他もあるようでした。その中では、古代ローマのコロッセオを模した円形のテント会場で猛獣狩りや剣闘士の試合を見せたLa Licorne(フランス)の「SPARTACUS」、何台ものカメラと映像を切り替えながらミニチュアの紙人形を動かして大航海劇を一人で上演したLafontana - Formas Animadas(ポルトガル)の「PEREGRINAÇÃO(巡礼)」、ファンタジックに男の子の成長を描いたUnterwasser(イタリア)の「OUT」、簡単な人形と素朴な演出で徹底的に子どもたちを楽しませたTitiriteros de Binéfar(スペイン)の「EN LA BOCA DEL LOBO(オオカミの口)」、まるで移動遊園地のようにアイデアが詰まったWild Theatre(オーストリア)の「Fishing for Shadows」などが印象に残りました。

日本からは、劇団 かかし座がバージョンアップを続ける「ANIMARE」を上演。かかし座を海外で観るのは6年ぶりですが、手慣れた風で安心させられます。そしてもうひとつは、ウニマ評議員で愛知人形劇センター会員の千田靖子プロデュースによる「九代目玉屋庄兵衛と名古屋からくり」。プログラムではSHOBEI TAMAYA IX & KARAKURI NINGYO COMPANY "WONDER OF KARAKURI NINGYO"となっています。「茶運人形」に始まって全国に2例しかない「文字書きからくり」「からす天狗乱杭渡り」まで説明も交えて50分間のパフォーマンス。物珍しそうに見入る観客の顔が印象的で、終了後は「あれはどうなっているんだ」と人だかりに。フェスティバル期間中4会場8回の上演で「KARAKURI」の名を知らしめました。

長を描いたUnterwasser(イタリア)の「OUT」、簡単な人形と素朴な演出で徹底的に子どもたちを楽しませたTitiriteros de Binéfar(スペイン)の「EN LA BOCA DEL LOBO(オオカミの口)」、まるで移動遊園地のようにアイデアが詰まったWild Theatre(オーストリア)の「Fishing for Shadows」などが印象に残りました。

愛知人形劇センター副理事長・広報部長 たかはしいちげん(人形劇団わたぐも)



Unterwasser「OUT」の人形を持った役者と たかはしいちげん

REPORT

Domestic

国内人形劇フェスティバル

- 第29回池袋いけいけ人形劇まつり
- 千葉県人形劇まつりin木更津



池袋いけいけ上演風景



池袋いけいけ入場口

この5月、6月に上演参加した他県の人形劇フェスティバルについて報告します。

5月4日に催された「第29回池袋いけいけ人形劇まつり」は池袋駅から歩いてすぐの豊島区民センターで毎年同じ日に行われるフェスティバルです。1988年、ウニマの世界大会が日本で開催された際、同時に「世界人形劇フェスティバル'88東京」というイベントが行われ、「池袋いけいけ人形劇まつり」はプレ・フェスティバルとしてその年の7月に誕生。以来、今年まで続いています。このフェスティバルの特徴は、①誰でも参加できるオープン参加形式。②参加バッチだけですべての会場がフリーパス。③スポンサーを持たない独立採算で、プロアマ学生の人形劇団が協力して毎月のように実行委員会を開いて運営。④各会場にプロデューサーがいて、参加も運営も会場単位。⑤毎回統一のテーマ(今年は「百貨店」)を決め、建物内の各会場(今年は8つ)にはテーマにちなんだ名前がつけられ、「人形劇のテーマパーク」をイメージしている。⑥必ずフェスティバル終了後、当日に全劇団が1つの広い部屋に集まって報告と反省会をし、打ち上げに出かける、など。今年は48劇団が参加、動員数は

1000人近くに及んだとのこと。熱気のあるフェスティバルです。

6月18日には「千葉県人形劇まつりin木更津」が催されました。「千葉県人形劇まつり」は1990年に始まり今年で第14回。隔年開催で、開催地は千葉県内の持ち回りです。運営は千葉県の人形劇団が集る運営委員会で、やはり独立採算。今年は千葉県内外のプロ・アマチュア計39劇団が参加しました。木更津駅西口側10カ所の屋内・屋外会場で上演を行い、町中が人形劇まつり。300円で全演目が見放題のフリーチケット制ということもあって、1000枚の売行きは完売。当日券もあちこちで売り切れが出るなど、大盛況でした。次回、再来年はこの「千葉県人形劇まつり」から生まれた「あわ夢まつり」と合体して館山開催だそうです。そのとき「千葉」は15回、「あわ夢」は20回、楽しみです。

愛知人形劇センター副理事長・広報部長 たかはしいちげん(人形劇団わたぐも)



特定非営利活動法人 愛知人形劇センター 千460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309 http://aichi-puppet.net/ MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター ひまわりホール情報誌 29号 2016年夏号 発行:特定非営利活動法人 愛知人形劇センター 発行人:木村繁 編集人:たかはしいちげん デザイン:江利山浩二(KINGS ROAD) 編集:小島祐未子(常鳴の編集舎)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

あぶ

Aichi Puppetry Center

ひまわりホールから発信するシアター情報誌

2016 SUMMER VOL. 297 http://aichi-puppet.net/



演劇人が! 舞踊家が!!



人形劇初挑戦 & 大競演



「劇作家とつくる短編人形劇2016」写真上から「にんぎょうひめ」(作:舟橋「委員長」慶子、演出:川村ミチル)、「Puppet Pupez(バベット・バベツ)」(振付・演出:堀江善弘)、「モノ、ガタリ」(作・演出:劉馬カオス)